



まちのシンボル「ひと・まち・ゆめ」

わが町 志津南 NEWS

志津南ホームページ
http://waka-kusa.net/

発行
志津南地区自治連合会
連絡先
志津南市民センター
(公民館) 563-6206

協働のまちづくりで説明会 市計画案に注文あいつぐ

協働のまちづくり検討委員会(妹尾志郎委員長、26人)は5月9日、市の担当部局の出席を求め、市が進めようとしている「協働のまちづくり協議会」設立の具体的なねらい、目標などについて説明会を開催しました。



協働のまちづくりについて説明を受ける委員

「市財政の低減、新たなサービスの創造など、ねらいとする具体的な効果、町づくり協議会を地域代表の窓口とすることのメリット、補助金の一括交付等による地域の裁量権とメリット」などについて提示するよう求め

ていました。説明会では、市まちづくり協議会では協働のまちづくりのねらいについて「行財政運営の効率化を図るため、関係団体の行政の下請け組織的な関係や既存補助金を見直し、行政事業の協働化、市民センターの地域総合化を推進する」と説明、この受け皿となる「協働のまちづくり協議会」(仮称)の設立を要請し

ました。市は「公共サービスの一部にかかる権限と財源をまちづくり協議会に委譲し、住民による地域自治の推進を図る」としていますが、出席した検討委員会委員から「既存の組織を白紙にして構築するのか、具体的な住民のメリットは、住民サービスにかかる財政状況を分かりやすく数値で示せないか」などの意見が続出、これに対し、市は具体的な点は検討を進めている段階であり、今後詰めていくと回答するにとどまりました。

協働合校21年度の事業

志津南地区地域協働合校推進委員会は5月2日、志津南市民センター(公民館)でわんぱくプラザ南つ子実行委員会と合同の今年度第一回委員会を開催、各種事業などについて審議しました。

委員会で平成20年度の事業・決算報告に続いて、今年度役員を選出。基本方針を『子どもと大人の協働「共育ち」を進めると確認したあと、志津南地区地域協働合校とわんぱくプラザ南つ子が、歩調を合わせて事業に取り組むことを申し合わせました。

今年度の事業計画は次の通りです。それぞれの詳細については、今後詰めることにしています。

- 7月 あおばな摘み体験 夏祭りに参加しよう
- 8月 宿泊体験
- 10月 食農体験(収穫・試食)
- 11月 ハロウィンパーティー 館外研修
- 12月 ポストカード作り
- 2月 もちつき大会
- 年間 あいさつ運動

【平成21年度委員】

- 会長 岩井 淑郎
- 副会長 小野 栄祐
- 委員 馬場 豊
- 辻 弥生
- 上田 恒章
- 田中 節子
- 大上 勝彦
- 垣根 和子
- 丸山 和子
- 福井 春美
- 萩原 常雄
- 妹尾 志郎
- 谷口 賢
- 喜田 久子
- 塚本 和代
- 鶴田 逸朗
- 水野 敏昭
- 西村 和子
- 横垣 敬子
- 山本智香子

事務局
会計

出直し一斉清掃に812人



加した住民約812人(子ども含む)がカマや剪定ばさみ、竹ぼうきを手に各班の持ち場に散り、生い茂る雑草や低木の剪定、ごみの撤去に汗を流しました。前日に機械刈りされた草類は夜中の雨水を含んで重く回収に苦

親子で食農体験



今年度最初の「わんぱくブラザ南っ子・地域協働合校」の事業「食農体験・親子ハイキング」が5月16日、下笠町の「あおばな館」へ出かけて催されました。この日は、あいにくの雨でしたが、小学生35人と保護者や地域の協力者を含む約60人が、JAの小寺指導員から話を聞いて、さつま芋の苗を植えました。土が思ったより固くて大変でしたが、軍手をはめ、穴を掘って苗を横向きに植えて土を砕いてかぶせたあと、秋に大きく実

勞しましたが、同10時頃には所定の集積場に「刈り草」の大きな山が築かれました。おかげで志津南一帯はスッキリ、サツパリ。普段からボランティア活動で空き缶やたばこの吸い殻、ゴミを拾い続ける老人クラブのメンバーや自主的にバス停周囲を

美しくと活動する人たちによって「緑あふれる美しい町志津南」は支えられています。みなさん、本当にお疲れさまでした。普段からワンちゃんたちの糞尿処理も飼い主はマナーを守ってこれからも気持ちよい環境維持に努めましょう。(福利環境部)

志津南小PTA環境ベルマーク部はベルマークを集め、学校備品の購入に充てています。その一環として4月10日、志津南市民センター(公民館)に使用済みインクカートリッジの回収箱を設置しました。

1円の計算で集めることにより学校設備の充実、ボランティア活動の推進に役立ちます。集まったベルマーク点数の1割は学校名義で「へきち資金」として寄付されることになっています。

カートリッジ回収箱設置

ベルマーク協賛会社キヤノンとセイコーエプソン社製プリンターの使用済みインクカートリッジを回収することにより、ベルマークポイントが加算され、1個5点のベルマーク点数がもらえます。処分すればただのゴミですが、1点

子どもたちの元気パワーで雨を吹き飛ばすほど盛り上がった楽しい一日でした。

小雨の中で田植え



子ども会(福井春美会長)は5月17日、若草のテニスコートのすぐ下の田んぼで昨年に続き、田植えをしました。今年、桐生の山本さんに田んぼを貸していただき、一枚の田んぼを2つに分け、半分は子ども会、残りの半分は志津南小学校の5年生が翌日(18日)に植えました。

子ども会が田植えた17日は、残念ながら小雨でしたが、

今回は、山本さんに準備してもらった断面が六角形の六角田植え枠を使って、苗を植え付けました。

9月上旬には、刈り取りを予定しています。植え付けに参加できなかった小学生の皆さんも稲刈りにはぜひ参加してください。(子ども会 谷口賢)

松本、杉田さんが表彰される



4月に開かれた平成21年度市健康推進員連絡協議会総会で、志津南地区から次のお二人が長年にわたる健康推進員活動が認められ表彰されました。写真。松本孝子さん(若草3丁目)は20年にわたる活動で4月28日、滋賀県健康推進員連絡協議会会長より感謝状が、また杉田朋子さん(若草4丁目)は10年にわたる活動で4月15日、草津市健

康推進員連絡協議会会長から感謝状を受けられました。お二人は長年にわたり地域食育のリーダーとして活躍、明るくパワーあふれる活動の姿勢はメンバーの範であり目標です。これからも一緒に頑張っていきたいと思っています。(健康推進員連絡協議会)

南湖へバスツアー



展望台から遙か山裾に二つの団子形の大阪ガスタックを見つければ「わあ！」と自分たちの住まう方角を見つけ会話も弾みました。また湖南平野にピラミッドのような美しい三角錐の姿を見

せる近江富士。青々とした琵琶湖と湖南一帯の眺めを堪能した後下山しました。

車窓からは八重桜をまだ見ることができ、昼食は湖辺のホテルで。ドアを開ければすぐ水辺。おだやかな湖上には多くの釣り船が水鳥の友のように浮かんで

いました。

午後は琵琶湖大橋を渡り草津市立水生植物園・みずの森へ写真。咲き誇る花々に迎えられる園内で、さまざまな水生植物などの美しい回廊をゆっくりと散策し春の一日を楽しみました。(ボランティアグループ泉)

琵琶湖の魚とふれあい

たんぽぽが子育てピクニック

志津南地区の子育てグループが5月7日、滋賀県立琵琶湖博物館へピクニックに出かけました。写真。

当日はあいにく雨となりましたが、それを吹き飛ばさんぽぽの元気な乳幼児19人とお母さんら総勢39人がバスで烏丸半島に出発しました。

この企画はたんぽぽクラブ(井畑和子代表)が子育て中のお母さん方に呼びかけ実現したもので、日ごろ子育てに追われているお母さんたちのたくましくも愛情あふれる育児風景が見受けられました。

広い館内を走りまわり、うれしくてたまらない様子です。淡水魚の泳ぐ中をくぐり抜けるトンネル水槽をはじめ、琵琶湖の主、ピッコオオナマズ、そしてサメのような大きな外国の淡水魚がゆっくり泳ぐ様子にびっくり顔。

また小ささまざまな水槽に顔をくっつけ歓声を上げて見入ったり、魚と触れ合い体験したあ

懐メロ、今年もスタート

今回は新しい試みとして、お茶休憩の後に最新流行曲に取り組み、秋元順子の「愛のままに...」を練習しました。次回から数回にわたってこの曲を練習し、首尾よくマスター(?)したところで、氷川きよしの「きよしのズンドコ節」に移る予定。



今年度1回目の「懐メロを歌う会」が4月28日、志津南市民センターで開催された。全員で発声練習をしたあと、参加者29人が「こいのぼり」、「背くらべ」、「花」、「白い花の咲く頃」など9曲を元気いっぱい合唱しました。

と、お母さん手作りのお弁当と一緒に食べました。こんな子どもたちが琵琶湖の恵みをいっぱい受け、すくすく成長していつてほしいと願いつつ楽しいひと時を過ごしました。これからもお母さんたちの活動を期待し支援していきます。皆さんのご参加お待ちしております。(民児協)



- 6月18日(木) ファミサポキャラバン隊 10:00~12:00
- 6月20日(土) 健康ウォーキング 8:15 若草中央公園集合
- 6月22日(月) 朝ごはん。朝ごパン。料理講習会 10:00~13:00
- 6月23日(火) 地域サロン: 懐メロを歌う会 10:00~11:30
- 6月24日(水) やすらぎ学級 13:30~16:00
- 6月27日(土) 社会奉仕 8:15 若草中央公園集合
- 6月30日(火) 家庭教育支援講座 第1回 10:00~12:00
お話とエクササイズ 未就学児とその保護者
- 7月3日(金) 定例健康相談日 9:30~12:00 市健康推進課
ふれあい昼食会 12:00~13:00
ボランティア「泉」
- 7月4日(土) 健康ウォーキング 8:15 若草中央公園集合
- 7月5日(日) 囲碁ボール大会 9:00~12:00 社会福祉協議会
- 7月11日(土) あおばな摘み体験 わんぱく南っ子・地域協働合校
- 7月14日(火) 地域サロン: 懐メロを歌う会 10:00~11:30
印の会場は志津南市民センター(公民館)です

ボランティアグループ泉は4月24日、高齢者とボランティアの南湖周遊交流バスツアーを実施しました。



百花爛漫、参加者35人の笑顔も天真らんまん。快晴のもとバスは南湖一周に出発しました。まず比叡山ドライブウェイ中腹の夢見ヶ丘へ。

ササケ 万歳

金屬的ともいえる大正琴の独特の音色に古きよき時代を重ね合わせる人は多いだろう。

鍵盤と5ないし6本の弦を持つ大正琴は日本人が作り出した唯一の楽器といわれる。大正元年(一九一二年)、名古屋の旅館の息子、森田吾郎が二弦琴をもとにタイプライターにヒントを得て発明したそうだ。大正琴は昭和27年、ラジオで放送された尾崎士郎原作の「人生劇場」に古賀政男作曲の同名の歌が使用され、全国に大正琴ブームを

れている。

巻き起こすきっかけとなった。現在でも愛好家は数十万人いると推測されている。それはともかく、大正琴のポランティヤグループ「メルシー」はたった4人の小所帯ながら、ダイケアセンターを中心に年間20回近い演奏活動をこなしている。同グループは平成12年にスタートした「鈴虫会」がメンバーの減少と、ポランティヤ

大正琴グループ「メルシー」

心打つ繊細な音色

で演奏活動をしたという思いから、鈴虫会に終止符を打ち、新たにポランティヤグループ「メルシー」として現在のメンバーで立ち上げた。平成19年1月のことだった。その年の4月には草



練習でもぴったり息の合った4人グループ

津市社会福祉協議会に登録、養護老人ホームやダイケアセンターを舞台に演奏活動を再開した。市内各所で催される「高齢者ふれあいサロン」を中心に、年10回あまり入所者に演奏を披露している。若草でも年末の「ふれあいミュージックソン」には欠かさず出演、定番となっている。

「グループ名をなぜフランス語のメルシーと？」と尋ねると、代表の井之口晃代さんは「演奏できてありがと。聞いてもらってありがと。なにこにも感謝の気持ちをお忘れなように」と名付けたそうだ。

一回に演奏するのは15曲。同じ曲ばかりというわけにはいかず、新曲を織り込まねばならないので大変だ。その練習ぶりを見学した。正方形に4人が相対し、数字を打った楽譜を見ながら、左の5本の指を使って鍵盤をたたき、右手の義甲(ピツク)で弦を弾く。メンバーの歌やカセットの音楽に合わせて「君恋し」「おふくろさん」「野に咲く花のように」などがこの日のテーマだった。時折り、指導する井之口さんから「そこ

んと、ちよつと違う」と、声をかけ、同じ箇所をみんなで何度も繰り返す。

数々の演奏活動の中でも、百歳のおばあさんの誕生会に招かれたこと、「同じ百歳のおじいさんが生きていてよかった」と話してくれたことが忘れられない」と4人は振り返る。

大正琴に手を染めたきっかけはまちまちだが、経験8年という戸田光江さんは「ミュージックソンで初めて耳にし、その音色に魅せられてすぐに参加した」と言い、同じく経験9年の吉田宏子さんは「定年後、何かしたいと思っていた時に大正琴のチラシを見て、触れてみてその場

気に入った」。また経験10年の井上隆子さんは「たしなんでいた人に連れられて聞いた音色がすてきだったから」といい、今では目薬をもらいながらも毎日の練習は欠かさないと笑顔で話した。

…メモ…

代表 井之口晃代

役員 4人

活動 第2、第4金曜日午後2時から同4時まで。

場所 志津南市民センター

事務所 月額1000円

連絡先 井之口代表
携帯 090(1158)1349

募集

家庭教育支援講座

「子育てママ応援隊」

日時 第1回6月30日(火)

第2回7月30日(木)

10時~12時

対象 お話とエクササイズ
未就学児と保護者20組

場所 志津南市民センター
(公民館)会議室

受講料 一回1組300円

締切 6月25日(木)

その他 託児つき。

市内在住が在勤の人が対象で、申込多数の時は抽選。

申込・問合せ 志津南市民センターへ。

あおばな摘み体験

日時 7月11日(土) 9時~12時

内容 あおばな摘み体験・キーホルダー作り

対象 志津南小学1~6年生

場所 あおばな館(下笠町)。

集合 志津南市民センター
(公民館)

持ち物 はさみ、軍手、水筒、帽子、タオルなど

参加費 300円

申込 6月20日(土) 9時から、先着順44人。

参加者本人が直接、参加費を添えて志津南市民センターへ。

主催 わんぱくクラブ南子・地域協働校



パンデミックにはならなかつたが、新型コロナウイルス情報が振り回された5月だった。新型インフルエンザそのものに罹患する怖さより、万が一かかってしまった際のマスクミ報道を危惧した。その陰に隠れた形になったが、5月15日、家電エコポイントが実施された。詳細不明の見切り発車で始まった制度は、エコと

自分流エコ

これからこの季節、まず自分たちが確実に出来るエコの一つが、グリーンカーテン。ゴーヤーだ

けでなく、ヘンリーブルー等もまじえると視覚的癒し効果も楽しめて、一挙両得かも…。(文箱)